

<h1>そだて</h1> <p>第286号</p>	小千谷市 青少年育成センター	〒947-0031 小千谷市土川1丁目5番53号 Tel 0258-82-6750 Fax 0258-82-6750 相談専用電話 0258-82-6771 e-mail: s-center@city.ojya.niigata.jp URL <a href="http://www.city.ojya.niigata.jp/">http://www.city.ojya.niigata.jp/</a>
---------------------------	-------------------	--

## やる気のスイッチは？

青少年育成センター所長 菅原 誠廣

夕食後のある家庭の風景です。

台所のテーブルでいつまでも自分の部屋に行かない子どもを見て、母親が「早く部屋に行って勉強なさい」との言葉がけ。子どもが「今行って勉強しようとしたところだったのに、催促されるとやる気がなくなってしまう」と応える。ここで、子どもの言っていることは単なるへりくつなのでしょうか。

ほぼ日刊イトイ新聞という面白いWebページがあります。その中に、糸井重里さんと池谷裕二さんの対談が載っています。「脳の気持ちになって考えてみてください。」と題された2010年9月から10月の連載です。糸井重里さんはコピーライター、タレントなどたくさんの顔をもっている方で、池谷裕二さんは東大の教授で脳科学者です。

ネズミを使った実験によると、ネズミのヒゲはものすごく敏感で、人間の人差し指の先くらいの感度があり、ヒゲでちょっと触れただけで、それがザラザラしたものか、ツルツルしたものか、判断できるとのこと。ヒゲに対応した脳部位からニューロンの発火を記録していると、ニューロンの反応パターンが異なることからわかるのです。

ところが、たまに、ヒゲに触ろうとものを近づけると、ネズミが自分からヒゲを動かして触りにくることがあり、このときの脳の反応が、ただ触れられたときより、10倍ぐらい強いことがわかるということです。

たとえば、ある事実なり情報なりを知るとして、授業などで受動的にそれを知るときよりも、自分が身体を動かして積極的にその情報を得に行ったときのほうが、脳が敏感に反応するということです。

池谷さんによると「やりはじめないと、やる気は出ません。脳の側坐核が活動するとやる気が出るのですが、側坐核は、何かをやりはじめないと活動しないので。」とのこと。たとえば、朝、眠いのに起きるという行動をすると、体のスイッチが入り、脳は追随する。つまり目が覚めるのです。この脳内にある「やる気スイッチ」は自分で押せません。どうやら身体にしかスイッチは押せないようなのです。

さて、以上のことを考えながら冒頭の例に戻ると、自分から行動することがやる気に大きく左右することが考えられ、単なるへりくつではなくなる可能性があります。問題は、子どもがいつ行動に移すのかではないでしょうか。

令和3年度も青少年の健全育成に寄与するために、多くの委員の皆様から参加いただき街頭声かけ活動を行っていただきました。挨拶等の声かけ時、青少年の様子は、とても穏やかで、返事を返してくれたという感想がほとんどでした。小千谷市内がとても落ち着いた環境になっていることの表れだと考えております。参加いただいた皆様に感謝申し上げます。今後もお力添えをいただきますようお願いいたします。

## 令和3年度の活動報告

### □街頭声かけ活動

令和3年度は11月9日の最終声かけ活動まで、補導委員の方々に巡回していただいた回数は44回、延べ131人になりました。声かけ活動では514人の青少年に「愛の一声」をかけていただきました。皆さんの声かけ、見守りが小千谷の子ども達の健全育成に大きな力となっています。ありがとうございました。



活動後半の皆さんの感想です（抜粋）

危険な行為やそれと思しき行動をしている子どもが全くおらず、小千谷市が長年街頭補導をしてきて、抑止力としての効果を発揮している可能性があると感じました。

- ・ワイヤレスのイヤホンをしている高校生もいましたが、周りの声が聞こえていないと不安です。
- ・防災公園は今後も注意を向けるべきスポットになるのではないかと感じました。
- ・「補導」という言葉は少しマイナスなイメージを受けるのか、初めは緊張する方もおりました。「青少年補導委員」→「青少年見守り隊」くらいでも良いのかなと感じます。  
⇒ご意見ありがとうございます。早速、検討中です。
- ・自転車の横広がり通行を見かけるが、危険だと思ったことが何度かあります。

### □環境浄化活動

7月2日、育成センターと生涯学習課合同で、市内の商業施設やJR小千谷駅周辺を巡回しました。目立った問題点等はありませんでしたが、どこにでも危険は隠れています。皆さんの見守りや気づきも大切なポイントになります。今後ともご協力をお願いします。

### □合同パトロール

新型コロナの影響でおちや祭りは中止でしたので、合同パトロールもありませんでした。

### □広報活動

機関紙「そだて」を3回発行しました。小千谷市のホームページにも公開されています。お知り合いの方々にご紹介していただき、是非ご覧いただきたいと思います。

### □相談活動

今年度1月末までの相談件数は、延べ42件（面接6件、電話36件、メール0件）ありました。電話では継続的にかけてくる人もいますし、保護者からの相談も増えました。また、相談チラシを市内の小・中・高校生に配布しました。特に中学3年生には名刺サイズの相談カードを配布しました。新しい高校生活での不安や心配などを気軽に相談してもらえると有り難いです。

◆保護者の皆さんからの相談も受け付けています。お子さんへの悩みや不安をお持ちの方がいらっしやいましたら「青少年育成センター」の相談窓口をご紹介いただくとありがたいです。

この一年間、青少年育成センターへのご理解とご協力、ありがとうございました。

e-mail

青少年育成センター相談電話  
0258-82-6771  
[S-center@city.ojiya.niigata.jp](mailto:S-center@city.ojiya.niigata.jp)

相談時間 13:00~16:00（月~金）祝日を除く